

保育科学生の実習内容および生活時間に関する一考察 — 平成15年度2年生の教育実習、保育実習の実態より —

宮 崎 恵

A 2003 Study of the Student-teaching Programs
by the Pre-education Department, Komazawa Women's Junior College

Megu MIYAZAKI

1. はじめに

本学保育科における実習は、1年次に教育実習1週間（付属幼稚園）、保育実習4週間（保育所と施設にそれぞれ2週間づつ）を経験し、2年次には教育実習3週間、保育実習2週間で配当している。1年次の実習では、観察・見学実習から保育者の補助的役割としての参加実習が主体となるが、2年次になると責任実習の割合が多くなる。

特に教育実習においては一斉保育の形態で課題活動が実施されていることが多く、その指導経験（責任実習）をさせてもらうことが実習目的にもなっている。実習内容は、配属されたそれぞれの実習園によって大きく異なり、実習園の地域性、規模、バス通園の有無などによる拘束時間の差や、責任実習に対する実習担当者の指導内容の差も大きい。こうした条件の中、学生にとっての事前準備や実習中の負担差も大きく、ストレスや睡眠不足によって体調を崩してしまう学生の存在が心配される状況にもなっている。

本調査は、筆者が担当している教育実習の授業において、実習を振り返り、自身の取り組み姿勢を反省して今後活かすための事後指導の一環として実施したものである。学生の事前準備の状況や、実習中の生活時間についての実態を知ることができ、実習内容における負担の程度を把握することができたので報告する。

2. 研究目的

2年次における実習内容および実習期間中の生活

時間を知り、実習指導に役立つ知見を得るものとする。

3. 調査対象・日時

平成15年度2年生
教育実習回収116名（調査日：平成15年7月）
保育実習回収99名（ ” ：平成15年11月）

調査は筆者が担当している授業内で行い、自由記述による回答を分類・集計した。

4. 調査内容

- ① 事前準備の内容
- ② 実習後、準備不足だと感じた内容
- ③ 責任実習（課題活動）の内容
- ④ 実習中の生活時間調査（起床時刻、就寝時刻、睡眠時間）
- ⑤ 日誌および指導案作成に要した時間
- ⑥ 今後の自己課題について（教育実習後のみ）

5. 結果と考察

- ① 事前準備について（図1：複数回答）

学外実習の場合、実習園によってオリエンテーションの日程や内容はさまざまであるが、ほとんどの園で1週間前までにはオリエンテーションを実施していただき、実習における心構えや諸注意のほか、具体的な実習内容に関する事前準備の指導を受けることになっている。

教育実習時には、ほとんどの学生が事前準備の内

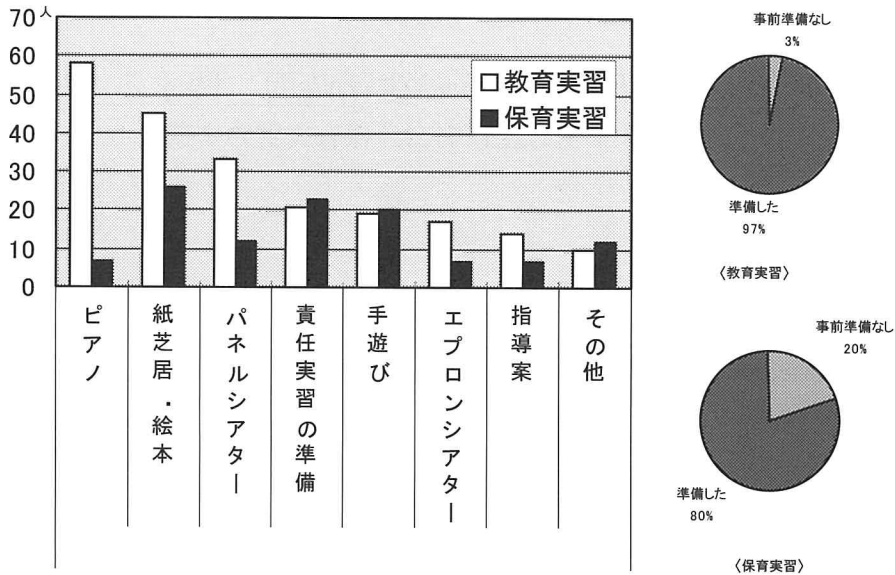


図1 事前準備の内容

容を列挙しており、未記入・および特にしていないと答えた学生は4名（3%）だった。実習園でのオリエンテーション時に課題曲を渡され、準備すべき具体的な事柄を指導される学生も多いが、特に言われなかった学生も必要と思われるものを準備したとして回答していた。

準備の内容はピアノが最も多く、次いで紙芝居や絵本、パネルシアター、責任実習の準備となっている。2年次の実習において責任実習があることは学生も承知しており、かつピアノ伴奏や手遊びなどの活動、紙芝居・絵本の読み聞かせなどの実演系の活動は殆ど毎日行うことになるため、こうした活動の準備を怠らないことは当然であろう。

一方、保育実習時において事前準備していった学生は79名（80%）、特に準備しなかったと答えた学生が20名（20%）存在している。事前準備をしていった学生の内容は、紙芝居や絵本、手遊び、責任実習の準備と続き、ピアノの準備は7名に留まった。

事前準備の内容は、ほぼ同様であるが、特にピアノの準備をするかどうかに関しては、幼・保の必要性に大きな差が見て取れる。

② 準備不足だったと感じた内容（図2：複数回答）

準備不足を感じたとする学生は、教育実習時に

110名（95%）、保育実習時は54名（55%）であった。準備した学生の割合は教育実習時の方が高かったにもかかわらず、準備不足を感じた割合も非常に高いという結果だった。不足を感じた内容は、教育実習時において、手あそび、ピアノ、紙芝居が上位を占めた。

回答のコメントによれば、準備の程度が不十分であったため、一応やっただつもりだったのにうまく実践できなかった様子が伺える。また、パネルシアターなどは、時間をかけて準備したにもかかわらず、演じ方の練習不足により上手にできなかったことを悔やんでいる。目の前に子どもたちがいてさまざまな反応があったときの言葉がけや対応の仕方に苦戦した模様であり、イメージとしてはもっとスムーズにできるはずだと思っていたようである。

また、責任実習（課題活動）の準備や指導案の準備においても、見通しの甘さや実際の場面をイメージする力不足が記述されている。実習園において細かい指導がされたことにより計画段階での詰めの甘さを反省し、実践での臨機応変な対処の難しさなどについて実感したようであった。

一方、保育実習時には事前準備を怠った学生が多かったにもかかわらず、準備不足は感じなかったとする学生も半数に上ったことから、半数の学生については、実習現場において特に問題を感じることもな

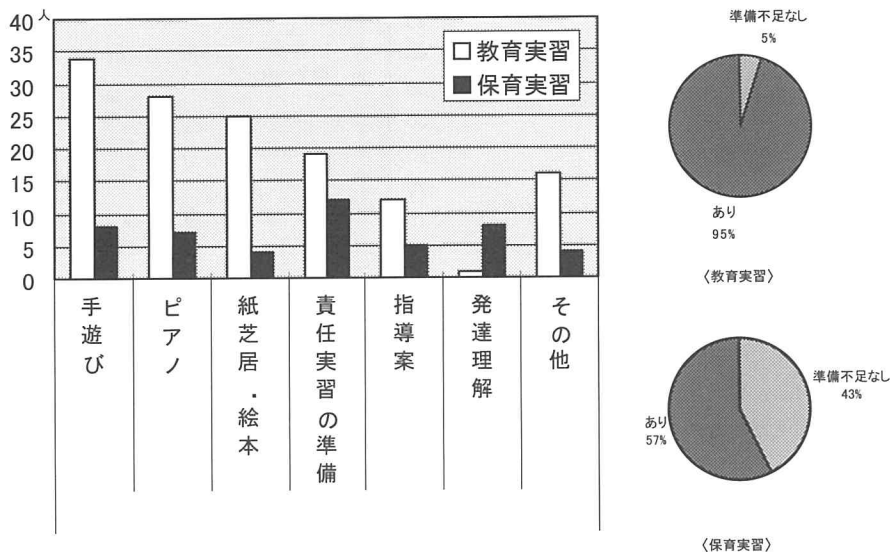


図2 準備不足の内容

く終了した様子が伺える。

なお、準備不足の内容に、年齢による発達理解が足りなかったとする回答が見られたのは保育実習において多く、保育手段や方法に関する準備不足のみならず、子ども理解に関する勉強不足を感じている点が印象に残った。

③ 責任実習（課題活動）の内容（図3：複数回答）

主活動の内容では、製作活動が最も多く、次いで運動あそび、製作して遊ぶ活動、描画・スタンプ・貼り絵などの絵画系の活動、リズムあそび（リトミックを含む）となっており、図画工作関連の内容が圧倒的であった。具体的には、紙コップ利用のけん玉、人形、糸電話、ロケット作り、紙皿利用の飛行機、新聞紙やビニール袋を利用したあそびなど、手軽に準備でき、かつ授業で経験していたものを実践していた。うさぎのヘリコプターも相変わらずの人気である。運動あそびの内容では、しっぽとりゲーム、フルーツバスケット、椅子とりゲーム、ボール遊び、鬼ごっこ、ダンスなどが取り入れられている。リズムあそびでは、楽器あそび（マラカス、でんでん太鼓）、歌あそび（こぶたぬきつねこ、電車ごっこ）、リトミックなどを実践している。その他の内容として、鳴き声あそび、カードあそび、ボディペ

インテイング、おりぞめ等が記されていた。

なお、保育実習においては、低年齢児クラスの場合に課題活動が行われることはほとんどなく、手遊びや紙芝居、絵本などといった部分的な責任実習のみで終了した学生も多い。実数値が少ないのはそのためであるが、3・4・5歳児クラスにおいて責任実習のできた学生は、幼稚園での実習経験を基に、より良い実践ができたのではないだろうかと推測するが、その辺の事情は定かではなかった。

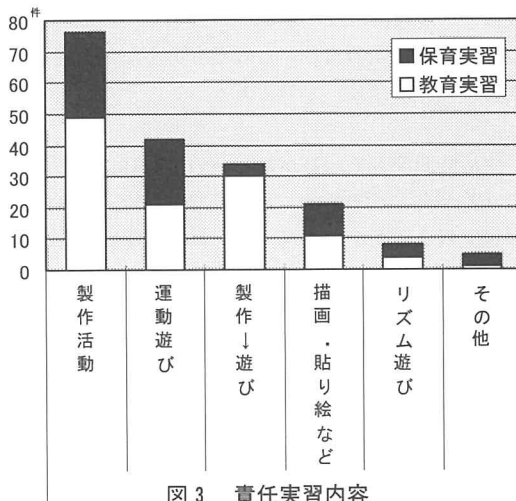


図3 責任実習内容

④ 実習中の生活時間

教育実習時、保育実習時の起床時刻、就寝時刻、睡眠時間をそれぞれ図4、図5、図6に表した。

・起床時刻(図4)

平均起床時刻は、教育実習時が5時55分、保育実習時は6時30分であった。時間帯で見ると、極端に早起きの学生(夜中の1時とか3時に起床する)も含めて5時台に起床する学生が教育実習時において多く存在し、また6:00~6:30頃起床する学生が多かったのに対し、保育実習時は6:30~7:00起床が多く、30分程度遅くなっている。

・就寝時刻(図5)

教育実習時の就寝時刻は午前0時台から2時台、2時以後の学生も多いのに対し、保育実習時では0時台、1時台の学生が多数を占めた。これも極端に早寝する学生(8時に就寝する)も存在したが、平均的就寝時刻は、教育実習時が午前0時34分、保育実習時が午前0時6分であった。

・睡眠時間(図6)

睡眠時間は、教育実習時において極端に少ない学生の存在が浮かび上がり、4時間台以下の学生が37名(31.9%)に上っている。これでは実習中、十分な睡眠が確保されない状態で保育に臨んでいることになり、子どもたちとの意欲的な関わりが持てるのかどうか心配である。実習中の睡眠時間の平均は、教育実習時が5時間21分、保育実習時は6時間24分となり、1時間程度の差がついている。睡眠時間については個人差の大きいものでもあるが、6時間程度は確保してほしいものである。

生活時間調査で回答が難しいのは、日によってかなり差がある点である。本調査では教育実習3週間、保育実習2週間を振り返り、それぞれ平均的な時間を回答してもらったが、「責任実習前日などは30分しか寝られなかった」とか、「自分でいつ寝ていつ起きたか本当に記憶していない」といったコメントも記入されており、実態はもう少し厳しい状況であったことが伺える。

石井らの調査(香川県)によれば、幼稚園教育実習時の平均起床時刻は6時28分、就寝時刻は0時27

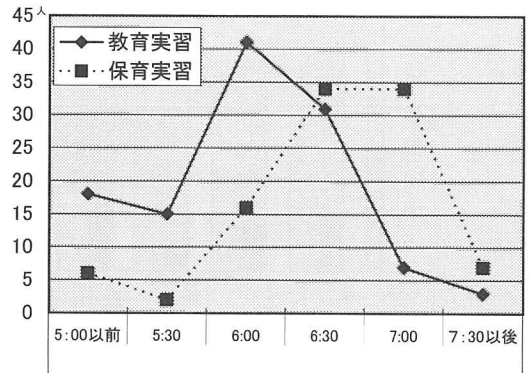


図4 起床時刻

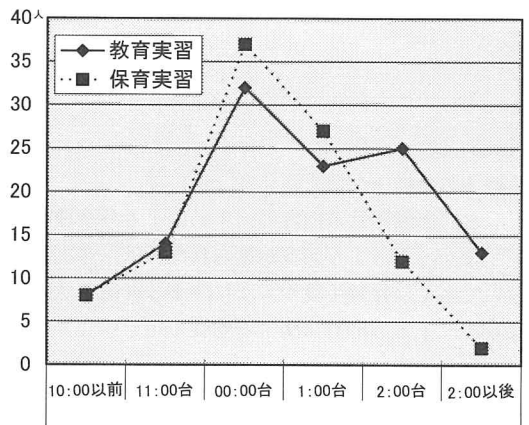


図5 就寝時刻

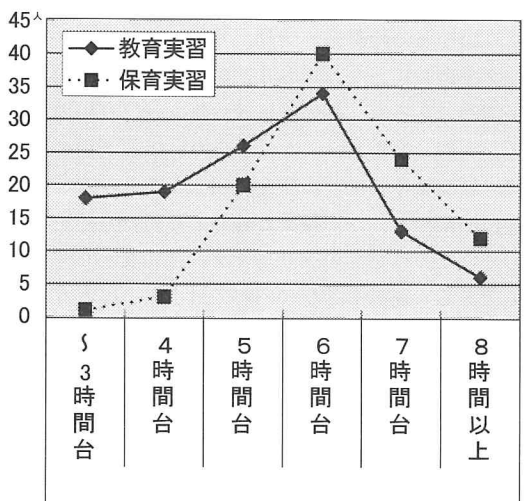


図6 睡眠時間

分、睡眠時間は6時間1分となっており、本学学生の教育実習時の平均起床時刻が5時55分、就寝時刻が0時34分、睡眠時間が5時間21分であったことを考えると、起床時刻において30分程度早く、睡眠時間は40分程度少ないなど、その差の大きいことが分かる。

⑤ 実習日誌、指導案作成に要した時間

学生たちの睡眠時間に関係する要因は、出勤時刻、退勤時刻および通勤に要する時間の問題と、帰宅後の日誌に要する時間および指導案作成や責任実習の準備に要する時間の問題がある。

実習日誌に要した時間は2時間台が平均的であるが、教育実習時において記入時間が長くなる傾向が見て取れる(図7)。

指導案については、作成しなかった学生が教育実習時に1名(0.9%)、保育実習時には21名(21.2%)となっており、作成時間についても、保育実習時には1時間台以下で仕上げた学生が多数であるのに比べ、教育実習時には2時間台、3時間台、4時間以上の学生が相当数存在しており、教育実習時における負担が大きいことが分かる(図8)。

これは、配属されたクラスの年齢によって、責任実習の内容が異なっていることが大きく影響しており、指導案を作成していても課題活動ではなく部分実習のみであったり、保育実習において低年齢児(0歳、1歳、2歳)で責任実習をした学生は、簡単な指導内容で作成時間も短時間で終わるものであったことが記述されている。一方、教育実習時には事前に準備していったものをことごとく却下され、何枚も書き直しをさせられたとか、書く枚数が多く大変だったといった記述が目をついた。

⑥ 今後の自己課題について(図9：複数回答)

6月の教育実習後、10月の保育実習へ向けて各自の課題および目標を記述させた。前述の「準備不足を感じた内容」と重複するものもあるが、ピアノの練習をもっとやっておくこと(29名)、日誌を早く書き上げるようにする(25名)、子どもとの対応において言葉かけや説明の仕方、表現力を養いたい(22名)、手遊びのレパートリーを増やしておきたい(20名)、紙芝居・絵本・エプロンシアターなどの視

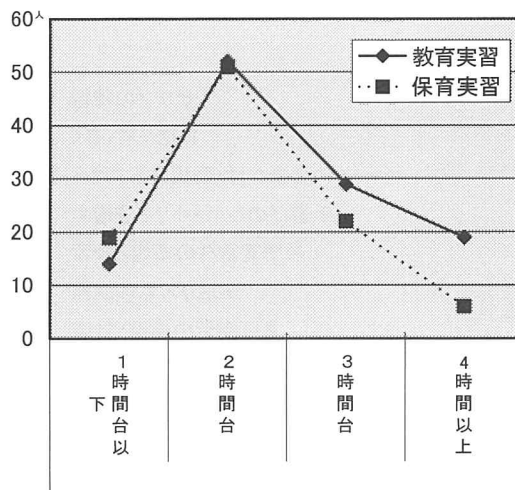


図7 日誌記入時間

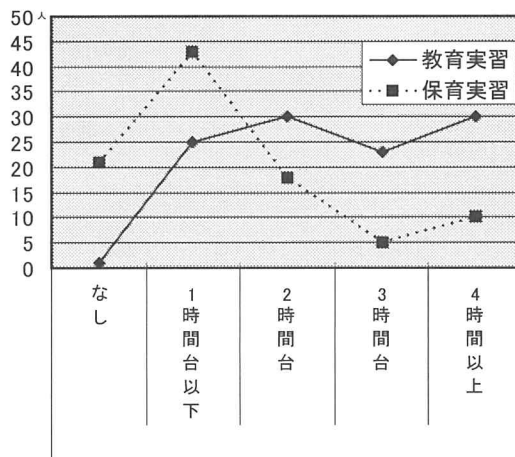


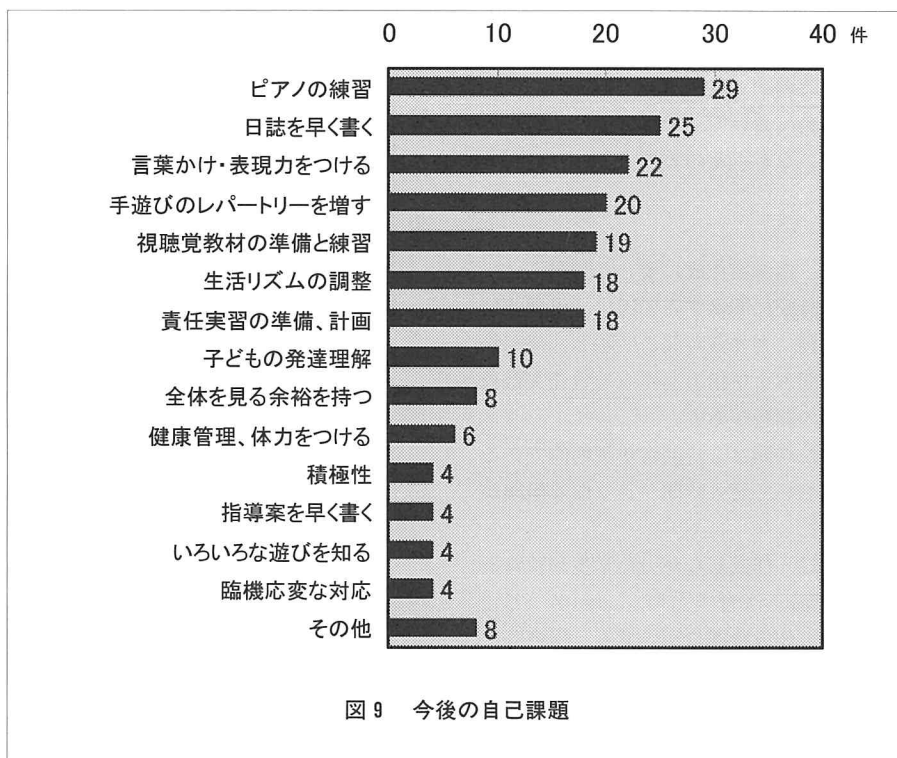
図8 指導案作成時間

聴覚教材について、事前に準備しておくことと演じ方の練習を積んでおきたい(19名)、生活リズムを整えて十分な睡眠時間をとりたい(18名)、責任実習での準備・計画は早くから取り組むことや、子どもの活動を十分に予測して綿密に考えること(18名)といった内容が記されていた。

6. まとめ

実習事後指導の調査から、以下の内容が明らかとなった。

- ① 学生の事前準備内容は、紙芝居・絵本、ピアノ、パネルシアター、手遊びなどの実演



内容が多かったが、ピアノの準備については教育実習時と保育実習時での差が大きかった。

- ② 準備不足を感じた学生は、教育実習時に多く存在し、その内容は事前準備の内容と重複しており、準備における詰め甘さ、練習不足を挙げている。
- ③ 責任実習（課題活動）で取り組んだ内容は、図画工作関係が圧倒的に多い。
- ④ 実習中の生活時間は、極端な早寝、早起きの学生が存在し、生活リズムが乱れていることや、睡眠時間も少ない実態が明らかとなった。また、睡眠時間は教育実習時の方が保育実習時より少ない傾向が見て取れた。
- ⑤ 教育実習時において、日誌や指導案の負担が大きい傾向が見られる。
- ⑥ 今後の自己課題としては、実演内容の充実と、日誌記入や言葉かけに関する語彙力・会話力の向上を目標とした学生が多かった。

以上の実態から、実習に向けての指導内容を検討してみると、学生自身の実演内容（紙芝居・絵本、ピアノ、パネルシアター、手遊びなど）に関しては、より実践的な準備が必要であり、子どもからの反応に対する会話力や、演じ方の柔軟性を養う必要がある。そのためには授業中のみならず、あらゆる機会（新入生歓迎会、学園祭、オープンキャンパス、身体表現発表会、ボランティア活動など）を利用した積極的な取り組み姿勢が必要であり、人前で演じたり話したりする機会を提供していかねばならないと考える。しかし、ピアノの技術向上については困難を伴うことが予想されるため、入学志願時点からの取り組みが必要であろう。

次に責任実習の内容についてであるが、図画工作関連の活動が圧倒的に多く、学生にとっては最も実践しやすい内容のようである。保育現場の課題活動として、製作活動を取り入れている園が多いのも事実であるが、学生がその他の活動をイメージできないのかもしれない、その実態には問題を感じる。保育内容の各授業において、もっと現場保育をイメージできる具体的な内容提示の必要性を感じた。

最後に実習中の生活時間について触れておきたい。予想通り、かなり厳しい状況下で実習を継続していることが分かったが、日誌記入や指導案作成に時間を要しすぎており、睡眠時間が不足している学生の存在が懸念される。日誌や指導案の書式に慣れることと、時間を決めた生活スケジュールを立て、できるだけ集中して学習をきりあげ、生活リズムを整えるよう指導していくことが必要であろう。

参考文献

1. 石井浩子・藤田洋子・前橋 明「幼稚園教育実習時の保育学生の生活と自覚症状」
幼少児健康教育研究第12巻第1号：43-52、2004
2. 天野珠子「保育形態と幼稚園の生活」駒沢女子短期大学研究紀要第33号：1-8、2000